

2. 上位計画・関連計画

2-1 上位計画、関連計画

※1…平成29年度末頃改定予定

上位計画	<p>●川崎市総合計画 (平成28年3月) …本計画では、政策4-4「臨海部を活性化する」-施策1「臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備」において、臨海部機能強化を図るため塩浜3丁目周辺地区を含むエリアの整備等の推進を位置付けています。</p>	<p>●川崎市都市計画都市再開発の方針 (平成29年3月) …本方針では、塩浜3丁目周辺地区を1号市街地の目標実現を図る上で効果が特に大きい地区、特に早急に再開発を行うことが望ましい地区である整備促進地区として位置付けています。</p>
	<p>●川崎市都市計画マスタープラン (平成29年3月) …本マスタープランでは、臨海部の活性化をめざした土地利用の誘導において、塩浜3丁目地区を公共空間等を活用した臨海部のイメージアップに資する緑環境の形成、下水関連施設や環境関連施設の高度化等の公共施設の更新整備に合わせた施設の再配置・複合利用を推進し、地区の土地利用を支える基盤整備や殿町3丁目地区などの戦略拠点を支援・補完する機能の導入などを図る地区として位置付けています。</p>	<p>●川崎臨海部土地利用誘導ガイドライン (平成21年3月) …本ガイドラインにおいて、サポートエリアのひとつに位置付けられている塩浜地区は、戦略拠点間を中継するエリアとして、ロジスティクスのメンテナンス・レスト機能など交通面や臨海部に不足する緑・アメニティなどをサポートする役割を担うことと位置付けています。</p>

関連計画 ○川崎市緑の基本計画 (平成20年3月) *1 ○川崎臨海のもりづくり緑化推進計画 (平成24年6月) ○川崎港緑化基本計画 (平成28年9月) ○かわさき資産マネジメントカルテ (平成26年3月)

2-2 塩浜3丁目周辺地区整備基本方針 (平成25年3月策定) の概要

本基本方針では、塩浜3丁目周辺地区の現状や課題を整理するとともに、公共施設などの市有財産が集積している特性などを活かし、施設の更新等に合わせた新たな機能導入や土地利用を支える基盤整備の基本的な方向性について示しました。

主な課題	<p>1) 地区内道路の改善…幹線道路と地区内道路の接続形態 (位置、道路構造) が脆弱</p> <p>2) 市有財産の有効活用…利用されていない市有財産が存在</p> <p>3) 幹線道路の機能強化と沿道環境の改善…路上駐停車車両による交通阻害</p> <p>4) 街並みの改善…施設の更新や利用状況等による沿道の景観形成</p>
------	--

整備の基本的な考え方	<p>更新を控えた公共施設が多く集積しているエリアを“機能導入・有効活用推進地区”として、公共施設等の更新整備に合わせて、具体的な取組を進めます。</p>
	<p>1) 臨海部の活性化に資する機能導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市有財産の有効活用による新たな機能導入 ● 土地利用を支える基盤整備 <p>2) 臨海部の産業成長を支える交通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 臨海部の交通利便性向上に資するバス交通機能の強化 ● ドライバーのレスト機能など臨海部の交通・物流をサポートする機能導入 <p>3) 安全・安心、快適で魅力ある地区形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑化の推進などによる潤いのある地区整備 ● 市民が利用する施設を中心とした開かれた地区形成

整備の方向性	<p>機能導入・有効活用推進地区を中心とした土地利用及び必要な基盤整備の方向性は以下のとおりとします。</p>
	<p>1) 土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の更新整備等に合わせた市有財産の有効活用 ● ライフインノベーション分野の中心拠点である殿町3丁目地区を支援・補完する機能導入 ● 臨海部への立地誘導に資する交通ネットワークの構築に向けたバス拠点施設の形成 ● 既成市街地等との共生、市民が利用する施設を中心とした開かれた地区形成 <p>2) 基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の更新時期を踏まえた土地利用を支える基幹的道路の段階的整備 ● バス拠点施設の進出や基幹的道路整備による臨海部のバス交通機能強化 ● 周辺道路整備動向を踏まえた交通機能強化や沿道環境改善 ● 公園等の公共空間と立地企業による緑の創出などによるアメニティ・回遊性の向上

